

開講期	2025年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	1024 子ども理解と学校づくり			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	火曜1限				
教室	D202教室				
代表教員	富樫 千紘				
担当教員	富樫 千紘				
テーマと到達目標	本講義のテーマは、戦後日本における学校づくり実践の理論と実践を学び、その意義と内容を理解することである。 具体的な到達目標は、①戦後日本における学校づくり実践を貫く理論を学ぶ、②学校づくり実践の事例に触れて理論の実際を学ぶ、③今日の学校づくりを取り巻く教育政策を知り分析視点を持つ、の3つである。				
概要	講義は3つの内容に分けて行う。 (1) 学校づくり理論編：「学校づくり」の目的と意味内容について学ぶ。 (2) 学校づくり実践編：戦後日本における学校づくり実践について学び、実践のポイントを理解する。 (3) 学校づくりを取り巻く課題編：近年の学校づくりを取り巻く状況について知り、現代において「学校づくり」を考える視点について学ぶ。 また、受講者の関心に応じて「大学生活を自分たちでつくる」活動の検討と実践を行い、学校づくり実践における「当事者性」について学ぶ機会を設けることを予定している。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員(複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	オリエンテーション：「学校づくり」ってなんだろう？				対面授業
第2回	理論編①学校づくりの目的「人格の完成」「人間的自立」				対面授業
第3回	理論編②学校づくりの目的：「発達」				対面授業
第4回	理論編③「学びの当事者」としての子ども理解・子ども把握				対面授業
第5回	理論編④学校づくりの「当事者」としての教職員の位置づけ				対面授業
第6回	理論編⑤学校づくりの「当事者」としての保護者・地域住民の位置づけ				対面授業
第7回	講義中間まとめの回：理論編のまとめ				対面授業
第8回	実践編①戦後日本の学校づくり実践1				対面授業
第9回	実践編②戦後の学校づくり実践2				対面授業
第10回	実践編③戦後日本の学校づくり実践3				対面授業
第11回	課題編①Society5.0における学校づくりの課題				対面授業
第12回	課題編②教職員の労働環境と学校づくりの課題				対面授業
第13回	課題編③学校統廃合政策と学校づくりの課題				対面授業
第14回	課題編④子どもの権利保障と学校づくり				対面授業
第15回	講義のまとめ：「学校づくり」を考える視点				対面授業
成績評価の基準	毎回の講義内の課題(30%)、小レポート課題(20%)、最終レポート(50%)により総合的に評価する。 2/3以上の出席が必要となる。				
履修にあたっての留意事項	毎回の講義後にポータルからの課題提出を求めため、タブレット・PCなどを持参することを推奨する。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限(抽選)授業					

の優先条件	
-------	--

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用			
教科書	特に用いない。	教科書(ISBN)	
参考文献	石井拓児『学校づくりの概念・思想・戦略－教育における直接責任性原理の探求』(春風社、2022年) 未富芳『子ども若者の権利と学び・学校』(子ども若者の権利と政策3)(明石書店、2024年) 児美川孝一郎他『Society5.0と揺らぐ公教育－現代日本の教育政策／統治』(晃洋書房、2024年)	参考文献(ISBN)	